

「リーダーの一流、二流、三流」という本からです

三流は、知ろうとせず、二流は、部下よりできるようになろうとし、

一流は、全体像さえ把握しておけばいいと考える

現代は仕事が複雑になったり、多様化したりしています。取扱商品の種類が多かったり、お客様ごとに仕様が違っていたりして、上司も部下の仕事をすべて理解するのが難しくなっています。だから、部下の細かいところまで見る必要はないかもしれません。しかし、まったく部下の仕事を把握しようとしなないのは問題外です。

経験を積んだ人が、別の知識のない部門でリーダーになった場合、当然リーダーは部下より知識が劣っています。そんなとき、今さら仕事を一から学ぶより、管理経験を活かしながら、効率的にチームを動かそうと考えてしまうのです。このような考え方では、次のような弊害が生じます。

① 部下との信頼関係の構築ができない

部下だって、リーダーがすべての知識を身につけているとは思いませんが、部下の仕事をまったく知らない、例えば商品知識も得ようとしなない、そんなリーダーを信頼しようとは思わないでしょう。リーダーが部下の仕事を理解しようと質問したり、前向きな姿勢を見せれば、部下との信頼関係は構築されます。部下はリーダーの知識が足りないことではなく、部下の仕事まで降りてくる、というやる気を見ているのです。

② 新しい仕組みをつくることができない

ビジネスの変化のスピードの激しい現代において、チームが継続的に成果を出し続けるためには、仕組みづくりをしていかななくてはなりません。仕組みをつくるためには、リーダーはメンバーより一歩高い視点で俯瞰的に業務を見る必要があります。業務の断片的な知識しかわからないのでは、仕組みをつくれません。チーム全体を見てどんな仕事があるのか、どの仕事に負荷がかかっているのかを把握する必要があります。

③ 部下のモチベーションが上がらない

部下の仕事を知らない状態で、部下に指示を出しても、モチベーションは上がりません。メンバーが担当している仕事はどこにつながるか、誰の役に立つか、仕事の意義をきちんと伝えるためにも、部下の仕事を把握しておくことが必要です。

知識もスキルもすべてにおいて、部下に負けないようにしようとするリーダーがたまにいます。しかし、すべてにおいて、部下に勝とうとする必要はありません。そもそも、それは不可能です。部下に勝てない部分は、サポートに回ればいいのです。こう考えることは、部下へのリスペクトにもつながります。

仕事を一から学ぶより、管理経験を活かしながら、効率的にチームを動かそうと考えてしまうとどのような弊害が生まれますか？ 3つ書いてください

① ( )

② ( )

③ ( )